

にじますぼちぼち通信 2023年1月号

○ 2022年12月31日、今年もこの日がやってきた

毎年恒例として年末に用意している「年越しオードブル」、昨年も多くのご予約をいただきました。かれこれ50年近くにわたって年越しオードブルを作ってきましたが、過去には700個ほどのオードブルを作った年もあります。当時は生協のカタログに掲載されていたこともあり、生協向けの販売が半分以上だったと聞いています。31日の夜明け前、午前4時ごろに生協のトラックが10台近く駐車場に並ぶ姿はなかなかの壮観で、初め



オードブルのほかに重箱を作っていた時代もありました。よく見ると、中身はあまり違いませんが、

てその様子を見たテツおばあちゃんが門の前で万歳三唱をしたという話も残っています。そんな一年で最も忙しい日となる大みそかの日の一番の心配事が、空模様。去年はクリスマスの直前に思いもよらない大雪が降りましたが、あれが31日だったらと思うとぞっとします。幸いにしてここ数年は穏やかな気分で年末を迎えることができています。やはり日ごろの私の行いが良いから...いや、お客さんの行い、ですよ。ともあれ、コロナに物価高とまだまだ厳しい日々が続きますが、本年も引き続きよろしく願いいたします。

○ 前回の閉店セール、私は10歳でした

藤丸が閉店してしまいますね。ずいぶん前から「大丈夫なのか」と危ぶむ声は聞こえていましたが、とうとうこの日が来てしまいました。当園も藤丸との付き合いは長く、旧店舗の時代から商品を置かせてもらっていました。藤丸が今の建物に移ったのは1982年、新店舗への移転にあたっては私の父も気合が入っていたようで、藤丸店の店先に大きな水槽を置いてニジマス泳がせていたとのこと。管理が大変すぎてほどなく撤去してしまいましたが、当時の藤丸の勢いを感じさせる話ではあります。私が店を手伝うようになった20年前に地下の食品売場の大幅改装があり、イートインやキッチンの併設などに力を入れたりもしましたが、かつての賑わいを取り戻すには至らなかったようです。個人的には外の見えるエレベーターが大好きでして、エレベーターに乗ると人ごみをかき分けて窓際に進んでいました。あ、子どもの頃の話ですよ。



最後と思うと、つい記念撮影。

○ 理想の弁当箱を求めるも、現実には厳しい

我が家の次女は中学三年生。予定通りであれば4月からは高校生になり、昼食はお弁当という生活が始まります。三姉妹の中で一番食べ物にこだわりの多い次女、高校でのお弁当を「まげわっぱ」の弁当箱で



ネットの画像だと、おいしそうに詰めてあるんですよ、これがまた。

持っていくことにあこがれておりました。去年のクリスマスプレゼントに「まげわっぱの弁当箱が欲しい」とサンタさんにお手紙を...書く年ではありませんので、ネットであれこれと探していました。ところが冬休みに入り塾の講習にお弁当を自分で詰めて持って行った日のこと、夜になってぽつりと「詰めるの大変そうだから、やっぱり普通の弁当箱にするわ」と。中三にして弁当のおかずの詰め方に思いをはせるとは、わが娘ながらなかなかやるではないか。でも、受験勉強もちゃんとしてくれよ。